

2016 年度
「シチズンシップ・スタディーズⅠ」
(地域活性化ボランティア)
受講ガイド《BKC版》

立命館大学サービスラーニングセンター

衣笠：有心館 1 階（3 月 25 日までは学而館 1 階）

Tel: 075-465-1952 / Fax: 075-465-1982

BKC：アドセミナリオ 1 階

Tel: 077-561-5910 / Fax: 077-561-5912

OIC：A 棟 1 階 AN 事務室

Tel: 072-665-2195 / Fax: 072-665-2059

（3 キャンパス共通）

窓口時間（開講期間中）：月曜日～金曜日/10:00～17:00

サービスラーニングセンター e-mail: ritsvc@st.ritsumei.ac.jp

サービスラーニングセンター HP: <http://www.ritsumei.ac.jp/slc>

目 次

はじめに（重要なお知らせ）	2
ボランティア活動を通して地域で学ぼう！	
ボランティアだけで奉仕活動じゃない。授業だけど講義じゃない。それがサービラーニング！	
1. 「シチズンシップ・スタディーズ I」の流れ	4
2. 学研災付帯賠償責任保険について	6
3. 評価について	6
4. 受講の中止について	6
5. 大学での授業スケジュール	7
6. 教員による指導・アドバイス（コアタイム）、受講中の諸相談について	7
7. 学部別単位授与について	8
8. FAQ（よくある質問）	9
9. 活動する上で心がけたいこと	10
10. プロジェクト紹介	12～

プロジェクト一覧

キャンパス	プロジェクト名	クラス	曜日時限	担当教員	掲載ページ
BKC	農業から地域を元気に！プロジェクト	G1	火曜 5 限	宮下 聖史	P12
	つながる高島・伝統を未来へプロジェクト				P14
	草津街あかり・華あかり・夢あかりプロジェクト	G2	水曜 5 限	山口 洋典	P16
	「多文化共生」「国際理解」プロジェクト	G3	月曜 5 限	秋吉 恵	P18

はじめに（重要なお知らせ）

- 何事においても積極的に取り組んでください。
- ボランティア活動に責任をもち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
- ボランティア活動全体を通して、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
- キャンパスを離れ、地域で活動し、学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。
- ボランティア活動先でトラブルなどが発生した場合は、直ちにサービラーニングセンターに相談してください。
- 本ガイドや各種書類、サービラーニングセンターホームページの情報をよく読み、記載内容の見落としがないよう注意してください。
- 各種提出書類の期限を厳守してください。
- 各種書類の提出は本人に限ります。
- 不明な点や質問がある場合は、サービラーニングセンターに問い合わせてください。
- 記載されている内容や日程が予告なしに変更される場合があります。各自、確認を心がけてください。

ーボランティア活動を通して地域で学ぼう！ー

「シチズンシップ・スタディーズⅠ」(6 回生以上:地域活性化ボランティア。以下、「シチズンシップ・スタディーズⅠ」で統一します)は、立命館大学サービslラーニングセンターが開講する正課科目です(課外活動ではありません)。この授業は、みなさんがボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目標としています。

ボランティア活動は、大学のキャンパス内だけでは得られない、かけがえのない経験を受講生にもたらしてくれます。さらに、地域で活動を行うことは、自らが暮らす地域をこれまでとは違った視点で捉えることを可能にするだけでなく、大学で学ぶ知をいかに地域で活かせるかを学ぶ契機となります。

ボランティアプログラムの開発・運営にあたっては、大学やサービslラーニングセンターが京都府、滋賀県や大阪府内の行政、公的機関、NPO、地域組織などと協定(覚書)を締結した上で実施します。

ボランティア活動の期間は、数日程度の短期で行うものから、数ヶ月程度の長期で行うものまでさまざまです。受講生が自身の興味や関心に沿って、参加するボランティア活動を選択することができます。

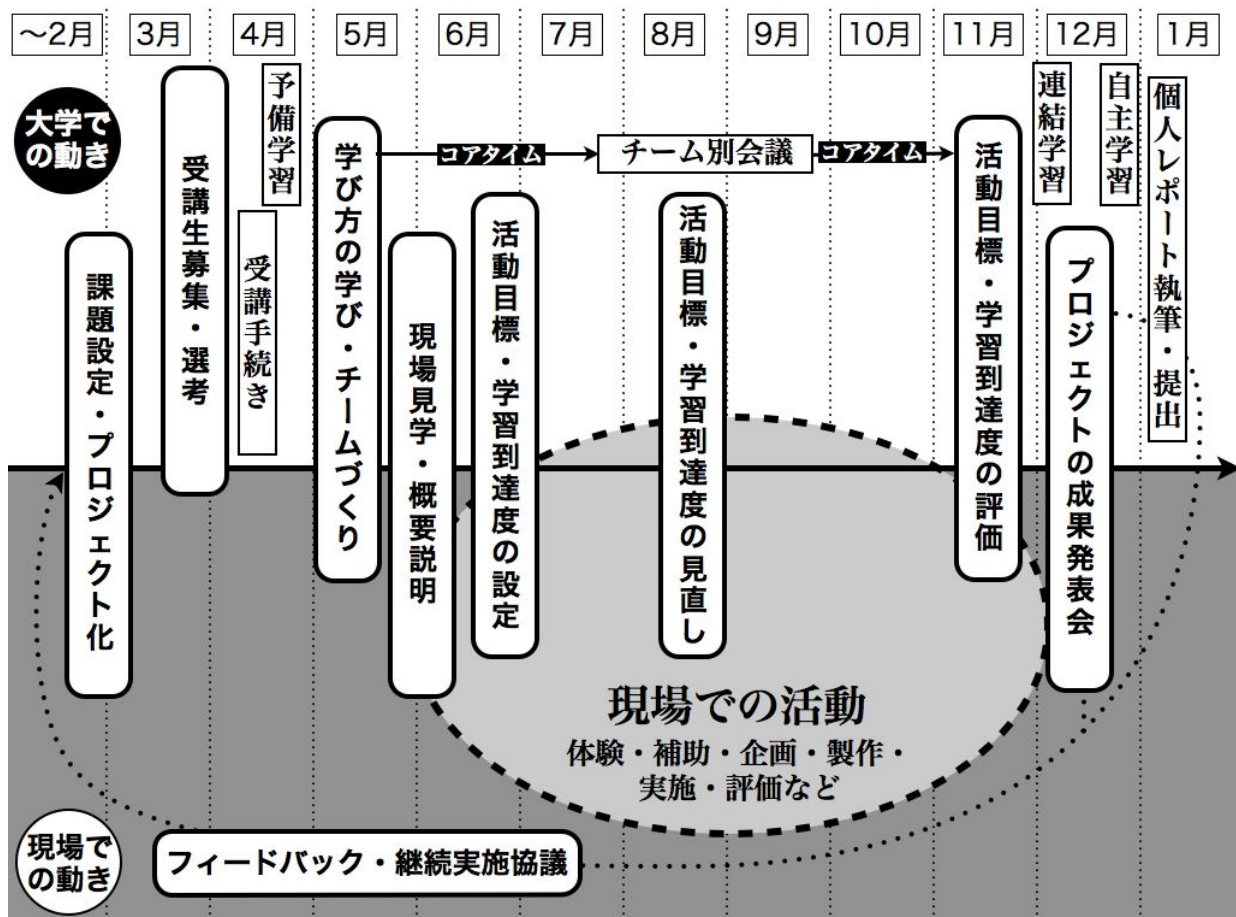
ボランティア活動の魅力を体感しながら、大学で学ぶ知に生きた風を呼び込んでください。

ーボランティアだけど奉仕活動じゃない。授業だけど講義じゃない。

それがサービslラーニング！ー

「シチズンシップ・スタディーズⅠ」は、「奉仕活動」ではなく「ボランティア教育」プログラムです。ボランティア教育とは、体験的学習の一形態で、ボランティア活動を中心に事前・事後の学習(研修・振り返り)を組み、明確な教育目的に基づいて行われる教育プログラムです。よって、ボランティア活動を通じて、他者や地域(コミュニティ)の役に立つだけでなく、そこから学習効果を得られるよう設計されます。この点が、純粋な「奉仕活動」との違いです。単にボランティア活動に参加すれば、単位が認定されるというわけではありません！ボランティア活動を通して何を学びたいのか、確かな問題意識をもって取り組むことが重要です。

また、このような教育手法は、欧米ではサービslラーニング(service-learning)またはコミュニティサービslラーニング(communitiy service-learning)と呼ばれています。



1. 「シチズンシップ・スタディーズⅠ」の流れ

エントリー	
<u>エントリー期間</u> ※2 回生以上…2016 年 3 月 24 日(木)～4 月 1 日(金)13:00 ※1 回生・追加募集…2016 年 4 月 4 日(月)～4 月 7 日(木)11:00 <u>エントリー方法</u> サービスラーニングセンターホームページ内「シチズンシップ・スタディーズ I /地域活性化ボランティア」のページより、Web 上にて必要事項を入力し、エントリーしてください。	<u>エントリーに伴う諸注意</u> ・エントリーの内容をもとに選考を行います。 ・1 人の受講生が参加できるのはひとつのプロジェクトのみです。 ・選考を通過した人数が 4 人以下の場合、プロジェクト実施を中止する場合があります。 ・所属キャンパスと異なるキャンパスをベースとするプロジェクトに参加することはできません。

選考結果発表と必要な手続き	
発表日時 : <u>2016 年 4 月 7 日(木)10:00/4 月 8 日(金)10:00</u>	受講許可者を対象に、以下日程で受講前ガイダンスを行います。賠償責任保険への加入手続きも行います。 G1:4 月 12 日(火)5 限 G2:4 月 13 日(水)5 限 G3:4 月 11 日(月)5 限
発表方法 : サービスラーニングセンター窓口・HP	
※ 早めに確認してください。 ※ 受講前ガイダンスの案内も掲示します。	

事前学習Ⅰ・Ⅱ（授業2回分）

- ① ボランティア活動について理解を深める
- ② ボランティア教育について理解を深める
- ③ ボランティア教育（シチズンシップ・スタディーズⅠ）における「学び方」を理解する
- ④ 地域に入って活動するための心構えを整える
- ⑤ 受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてチームワークを育む

オリエンテーション
①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。
②地域に入って活動するための心構えを整える。
③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてチームワークを育む。

課題

オリエンテーションの終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅲに持参すること。

事前学習Ⅲ(授業1回分)	
①プログラム毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点をもつ。	持参物:ジャーナル

ボランティア活動(42 時間以上)

- ①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する
- ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める

※活動時間の合計はプログラム共通で 42 時間以上が必要です。活動時間には、活動先でのオリエンテーションや反省会なども含まれます。

※以下の時間はボランティア活動時間には含まれません。その他の活動で、ボランティア活動に含まれるかわからない場合は、担当教員に相談してください。

- ・授業
- ・授業や活動報告会の準備
- ・コアタイムでの教員による指導、アドバイスの時間

※毎回の活動時間ごとに、「活動時間記録シート」に受け入れ先のサインをいただき、「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

コアタイム(週 1 回)

- ① それぞれの活動先での取り組みを共有し、学びを深めるための時間を設ける。
- ② 担当教員による指導やアドバイスを行う。
※ジャーナルの提出など、少なくとも月に 1 回はコアタイムを活用すること
※コアタイムの実施日時は、教員から指示、または教員と調整の上決定します

中間ふりかえり(授業1回分)

- ① 目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標をもって活動に臨んでいることを再確認する。
- ② 受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会をもつことで、「学び」を深める。

持参物:ジャーナル

事後学習 I・II(授業2回分)

- ①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する
- ②自らの活動を評価する(事前学習Ⅲで設定した 2 つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等)
- ③プログラムを通じて学んだことを今後につなげていくのかを検討する
- ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う

持参物:ジャーナル

活動報告会(授業2回分)

- ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)
- ②事前学習Ⅲで設定した「プログラムの目標(プログラム毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか
- ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか
- ④受講の経験やそこから得た「学び」を今度どのように活かすのか

場所:衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム(3キャンパス合同で開催します)

発表:20 分(質疑応答 5 分含む)/1 プロジェクト ※発表準備はプロジェクト全員で行う。

評価対象物(レポートなど)提出

2. 学研災付帯賠償責任保険について

「シチズンシップ・スタディーズ I」の各プロジェクトに参加するためには、事前に公益財団法人 日本国際教育支援協会の「学研災付帯賠償責任保険」(保険料 210 円/1 名)に加入する必要があります。選考を通過し受講が決定した学生は、受講前ガイダンスの際に保険加入手続きを行って下さい。保険加入の手続きは、センターが一括して行います。すでに当該保険に加入している場合は、その旨申し出てください。

「学研災付帯賠償責任保険」についての詳細は、パンフレットまたは下記 URL をご参照ください。

<http://www.jees.or.jp/gakkensai/opt-baisho.htm>

受講前ガイダンススケジュール: BKC G1: 4 月 12 日(火)5 限、G2: 4 月 13 日(水)5 限、G3: 4 月 11 日(月)5 限

3. 評価について

「シチズンシップ・スタディーズ I」は P/F(合格/不合格)評価です。評価は下記の要件、それぞれの内容をもとに行います。

- ① 原則、事前学習 I～Ⅲ、中間振り返り、事後学習 I・II、活動報告会のすべてに出席していること
- ② 「シチズンシップ・スタディーズ I」プロジェクトのボランティア活動(オリエンテーション含む)を合計 42 時間以上行なっていること
- ③ 定められた期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること
(諸注意)

- ・ 所属学部や回生によって、開講していない場合があります。詳しくは、P8 を参照してください。
- ・ 事前学習 I～Ⅲ、中間振り返り、事後学習 I・II、活動報告会の欠席は、原則認められません。ただし、やむを得ない理由でこれらを欠席した場合は、受講継続を認められることがあります。事前の届出を原則としますが、事後となった場合は、当該の授業日を含む 2 日以内とします。理由によっては、証明書の提出を求める場合があります。

4. 受講の中止について

受講生は受講開始後、以下の場合には、受講を中止することができます。

- ① 受講を継続することが困難になった場合
- ② 教育的配慮により、担当教員等が受講継続を困難と判断した場合

受講中止を希望する場合、担当教員に相談の上、「受講中止届」をサービスラーニングセンターに提出してください。なお、受講中止届を提出しても、受講登録の取り消し(受講辞退)にはなりません。受講許可後、評価の要件を満たさずに受講中止届を提出した場合、F 評価となります。

5. 大学での授業スケジュール

<BKC>

G1 クラス(宮下先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
事前学習Ⅰ	5月10日	火	5	A306
事前学習Ⅱ	5月17日	火	5	A306
事前学習Ⅲ	6月14日	火	5	A306
中間振り返り	8月25日	木	3	未定
事後学習Ⅰ	11月8日	火	5	A306
事後学習Ⅱ	11月22日	火	5	A306
活動報告会	12月11日	日	13:00～	(衣笠)創思館カンファレンス

G2 クラス(山口先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
事前学習Ⅰ	5月11日	水	5	A308
事前学習Ⅱ	5月18日	水	5	A308
事前学習Ⅲ	6月15日	水	5	A308
中間振り返り	8月25日	木	3	未定
事後学習Ⅰ	11月9日	水	5	A308
事後学習Ⅱ	11月16日	水	5	A308
活動報告会	12月11日	日	13:00～	(衣笠)創思館カンファレンス

G3 クラス(秋吉先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
事前学習Ⅰ	5月9日	月	5	A313
事前学習Ⅱ	5月16日	月	5	A313
事前学習Ⅲ	6月13日	月	5	A313
中間振り返り	8月25日	木	3	未定
事後学習Ⅰ	11月7日	月	5	A313
事後学習Ⅱ	11月21日	月	5	A313
活動報告会	12月11日	日	13:00～	(衣笠)創思館カンファレンス

6. 教員による指導・アドバイス(コアタイム)、受講中の諸相談について

担当教員による指導・アドバイスをうけるため、また学びを深めるため積極的にコアタイムを活用してください。コアタイムは、教員からの指示、または教員と受講生が相談の上、日時、場所を決定しますが、基本となる時間、教室は以下の通りです。

＜BKC＞

【G1 クラス(宮下先生)】 時間:火曜5限 教室:A306(前期・後期)

【G2 クラス(山口先生)】 時間:水曜5限 教室:A308(前期・後期)

【G3 クラス(秋吉先生)】 時間:月曜5限 教室:A313(前期・後期)

活動を進めるにあたり、活動先との関係作りや、心構え、活動に必要な備品などの点でアドバイスが必要なときは、担当教員もしくはサービスラーニングセンター窓口まで相談してください。

7. 学部別単位授与について

「シチズンシップ・スタディーズⅠ/地域活性化ボランティア」の単位授与は、所属学部、回生によって異なります。

● 【1～5回生】シチズンシップ・スタディーズⅠ

学部	単位	科目名	単位授与区分	要卒	受講登録制限
経済学部	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	自由科目	要卒としない	制限外
理工学部	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	制限内
情報理工学部	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	制限内
生命科学部	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	制限内
薬学部薬学科	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	制限外
薬学部創薬科学科	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	制限内
スポーツ健康科学部	2	開講しない			

● 【6回生以上】地域活性化ボランティア

学部	単位	科目名	配当回生	単位授与区分	要卒	受講登録制限
経済学部	2	地域活性化ボランティア	6～7回生	【2010年度以降入学者】 自由科目	要卒としない	制限外
	2	地域活性化ボランティア	8回生以上	【2009年度以前入学者】 自由選択科目	要卒	制限内
理工学部	2	特殊講義(自由選択)Ⅰ(地域活性化ボランティア)	6回生以上	自由選択科目	要卒	制限外
情報理工学部	2	特殊講義(基礎)Ⅰ(地域活性化ボランティア)	6回生以上	基礎科目の総合教育科目	要卒	制限内
生命科学部	2	特殊講義(自由選択)Ⅰ(地域活性化ボランティア)	6回生以上	自由選択科目	要卒	制限内
薬学部	2	特殊講義(自由選択)(地域活性化ボランティア)	6回生以上	自由選択科目	要卒	制限外
スポーツ健康科学部	-	-	-	開講しない	-	-

8. FAQ（よくある質問）

Q1. 2つのプロジェクトにエントリーできますか？

A1. いいえ。1人の受講生がエントリーできるのは、1つのプロジェクトのみです。よって、1人の受講生が2つ以上のプロジェクトを受講することはできません。慎重に選んで、エントリーしましょう。

Q2. 事前学習や事後学習を受けずに、ボランティア活動にだけ参加できますか？

A2. いいえ。「シチズンシップ・スタディーズⅠ」は、ボランティア活動も含めて事前学習Ⅰから活動報告会までがひとつのセットになった授業なので、どこか一部分だけに参加することはできません。しかし、正課授業としての「シチズンシップ・スタディーズⅠ」以外にも、サービスラーニングセンターでは多くのボランティア情報を提供しています。「シチズンシップ・スタディーズⅠ」の受講に関わらず、ぜひ参照してみてください。

Q3. お金がかかりますか？

A3. プロジェクトによって異なります。受講料などはありませんが、ボランティア活動先への交通費や終日活動する場合の昼食代などがかかる場合があります。また、宿泊を伴うプロジェクトでは、別途宿泊代と食費がかかります。

Q4. ボランティア活動の経験がなくても、受講できますか？

A4. はい。ボランティア活動の前後に事前学習や事後学習（ふりかえり）があるので、ボランティア活動未経験の受講生も安心して受講できます。活動中に不安やトラブルが生じた場合は、いつでも担当教員またはサービスラーニングセンターへ相談してください。

Q5. 単位授与されますか？

A5. 必要な要件を満たすことで単位が授与されます。ただし、授与分野等は学部によって異なります。（一部、開講しない学部・回生もあります）

Q6. 他の授業と重なった場合、「授業配慮願い」や「公欠届」などは出ますか？

A6. いいえ。ボランティア活動の実習日と他の授業が重なった場合でも、サービスラーニングセンターから「授業配慮願い」などは出せません。重複しないよう注意してスケジュールを確認のうえ応募してください。万が一重なってしまった場合は、受講生各自の責任において対応してください。なお、「他の授業の受講」を理由に「シチズンシップ・スタディーズⅠ」を欠席することも認められません。

Q7. 学研災付帯賠償責任保険には必ず加入するのですか？

A7. はい。シチズンシップ・スタディーズⅠを受講するには、公益財団法人 日本国際教育支援協会の「学研災付帯賠償責任保険」に加入する必要があります。この保険は、正課活動中の損害（ケガや事故など）を補償するための保険で、受講生には全員加入が義務付けられています。保険加入の手続きは、サービスラーニングセンターが一括して行います。すでに当該保険に加入している場合は、二重に加入する必要はありませんので、事前ガイダンスの際にその旨申し出てください。

9. 活動する上で心がけたいこと

①気持ちのよいあいさつをしましょう！

挨拶はすべての基本です。気持ちのよい挨拶はコミュニケーションの大切な第一歩です。

②言葉づかいに気をつけましょう！

受入先の方は地域課題を教えてくれる目上の社会人です。対等平等な「友達」ではありません。尊敬と感謝の気持ちを持って言葉遣いに気をつけましょう。

③約束・ルールを守りましょう！

ボランティア活動は人と人との信頼によって成り立ちます。約束やルールを守ることは基本中の基本です。自分の勝手な都合で約束やルールを違えることは、受入先の迷惑になるだけでなく、信頼関係を壊します。特に、無断での遅刻や欠席は、受入先に多大な迷惑をかけてしまいますので「厳禁」です。

④秘密は守りましょう！

活動中に知った情報の中には、個人の秘密にしておきたい情報もあることでしょう。こうした情報は絶対に口外してはいけません。秘密は守る！これも信頼を築く基本です。

⑤服装や持ち物は TPO をわきまえましょう！

活動先の仕事の中には、特に服装や持ち物について注意を促されることがあります。

そのことには全て理由があります。自分の意見やポリシーよりも、この注意を守ることを優先してください。

⑥わからないことは遠慮なく質問しましょう！

わからないことがあるのは、当たり前です。わからないことがあったら、授業を担当する教員や、受入先の担当者、サービスラーニングセンターのスタッフに遠慮なく聞きましょう。

⑦自主性を持って活動しましょう！

活動中、何をしたいかわからないこともあります。そのときは、「言われるまで何もしない」のではなく「何かお手伝いすることはありますか？」と聞きましょう。自分から動く姿勢を持つことで、より成長を実感できるでしょう。

⑧周りの人との関係を大切にしましょう！

ボランティア活動は、周りの人の気持ちを考え、相手の立場に立った行動をすることがとても大切です。みんなが気持ちよく活動できるように心がけましょう。

メモ

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

プロジェクト名:

農業から地域を元気に！

受入団体名: JA草津市(草津市内施設園芸農家)

募集人数

5名以上

<受入団体からのメッセージ>

農家の朝はとても早く、また、重労働である農作業は、若い方にとっても辛いかもしれませんが、早朝の作業をお願いする際には、農家民泊など、学生さんの経済負担を軽減しつつ、地域や農業従事者のことをもっと知ってもらえるような工夫をしたいと考えています。

私たちは、皆さんが口に入れるものを生産しています。このプロジェクトへの参画を通して、これまで何気なく口にしていた野菜をはじめとする食べ物の生産や流通のこと、また、ご自身の食生活について立ち止まって考えていただくことにつながれば良いと考えています。

<主な活動場所>

バス停 北山田口(近江バス)

<日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール ()Facebook ()LINE (○)電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

- ・若い自由な発想の提案
- ・大学生(次代の担い手)がどのような意識を持たれているか

<活動パターン>

- () 毎週1日程度・定例
 - (○) 月1~2回・不定期
 - () 主に夏期休暇・集中
 - () その他
- 具体的には…

<活動のテーマと主な内容>

農業から地域を元気にする

活動テーマと内容

農家へのヒアリングや就農体験、イベントでの企画を通じて、野菜に対する想いを生産者から消費者までつないでいきます。農業に対しては、実際に生産者がどんな思いで生産しているのか、また消費者はどんな事を考えて野菜を選んでいるのか、これらを日常生活で実感をもって感じることはほとんどありません。そこで、まず生産者の方の話を聞いて現状を把握し、就農体験を行います。その後「みなくさまつり」で企画出店を行うことによって、生産者と消費者を結び、日本中に存在する農業の課題を理解する手掛かりをつかんでいきます。

<期待できる学び>

- ・国は「地方創生」を進めていますが、多くの地方では農業が産業の中心です。実際に日本が元気であり続けるために地方がどうあればよいのか、草津市における課題解決をきっかけに、そのヒントを得られます。
- ・日常的に食べている野菜であるが、実際、作物がどのように作られ、出荷され、また消費されていくのか、実感をもって理解できます。
- ・食の安心安全に関する知識や、琵琶湖の環境の重要性について理解を深めることができます。

<活動の流れ>

日時	場所	活動内容
5月24日	あおばな館	オリエンテーション&担当者との顔合わせ
5月31日	あおばな館	農家さんとの顔合わせ
6月以降	あおばな館 前の畑	農作業実習 現地に足を運びながら、種植えから収穫までを行います。
夏休み	現地 (北山田地区)	栽培、収穫、出荷支援 現地にて宿泊しながら農作業を手伝います。
11月中旬 まで	JR南草津駅 周辺	地域住民とコラボしながら企画内容の検討
11月中旬	JR南草津駅 周辺	みなくさまつりでのイベント企画

<受講生に求めること>

費用	現地までの交通費等の活動に関わる実費が必要となります。
参加の 姿勢	探究心旺盛に課題を見つけ、新しい発想で解決策を提案して頂けたら有難いです。
終了後 の評価	

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

このプロジェクトを通じ、継続した大学とのかかわりを深めさせてもらい、今回のプロジェクトを発展させ、地元農業を通じた地域創生の活動を学生さん、大学スタッフの方と一緒にさせてもらえたらと思います。

プロジェクト名:

つながる高島・伝統を未来へプロジェクト

受入団体名: 高島市役所、高島市社会福祉協議会
(マキノ町上開田地区・勝野竜地区)

募集人数

10名

＜受入団体からのメッセージ＞

- ・伝統が息づく集落・自治会が長い歴史の中で大切にしてきたことは何なのかを、皆さんの外部からの視点で見つけてください。
- ・そして、その地域の宝物を集落・自治会の方と一緒に磨き、これからの地域やこの国にとって有効な資源に育てていきましょう。
- ・タイプの違う2つの集落・自治会を比較検討するとともに、中山間地域の可能性を探る。

＜主な活動場所＞

上開田草の根ハウス(最寄駅・バス停など: マキノ駅)

＜日常的なコミュニケーションの手段＞

(●)電子メール (●)Facebook ()LINE (●)電話

＜活動する現場で学生が求められる理由＞

高齢化が進み、地域内で顔を合わせる人の固定化が進む中で、学生がヒアリングやアイデア出しで地域住民の方と話す中で交流と協力関係が構築できる。

＜活動パターン＞

- () 毎週1日程度・定例
 - (●) 月1～2回・不定期
 - () 主に夏期休暇・集中
 - () その他
- 具体的には…

＜活動のテーマと主な内容＞

地域のために守り育ててきたものを未来に活かす

- ・中山間地域の集落が、守り育ててきたきれいな水とおいしいお米を、これからも地域の誇りとして未来に引き継ぐため、付加価値をつけるにはどうすればよいかを、地域の特性を学びながら住民と一緒に考えます。
- ・中山間地域の集落の地域特性を理解しやすくするため、同じように高齢化が進む中で、伝統文化を守り続ける旧城下町の自治会と比較します。
- ・フィールドワークで住民の方から地域のことを聞き取り、その魅力に触れ、地域にとって何が必要なのかを話し合い、アクションにつなげます。地域伝統に触れる機会として、地域の祭りや地域活動を、住民と一緒に体験します。

＜期待できる学び＞

- ・立命館大学のOBが暮らす2つのタイプが異なる地域で、それぞれの特徴的な歴史文化等との関わり方を学び、地域のイベントなどを通じて、新たな故郷として今後もかわりを持てる地域とすることができる。
- ・地域で大切に守り育ててきた水やお米の活かし方について、住民と一緒に考えるとともに、その栽培を通じて農家や農村の暮らしを理解することができる。

<活動の流れ>

日時	場所	活動内容
5月15日(日)	上開田、竜地区	現地確認(上開田、竜地区の現状把握と住民の方との出会い。)
5月28日(土)	竜地区	竜地区フィールドワーク・ヒアリング
5月29日(日)		
7月3日(日)	上開田地区	上開田地区こだわり農産物生産現場の理解促進
8月～9月※夏休み	上開田地区	上開田合宿 付加価値化の取り組み・収穫体験
10月16日(日)	上開田地区	農産物の販売・消費者嗜好の確認
11月19日(水)	上開田地区	地域住民とのワークショップ

<受講生に求めること>

費用	現地までの交通費、活動時の食費(集落・自治会側で用意することもあります、基本は自己負担と考えておいてください。)、フィールドワーク時の宿泊費
参加の姿勢	気楽な気持ちで参加してくだされば結構です。集落・自治会の人たちも、皆さんが来られるのを待っています。
終了後の評価	地域資源活用のアイデアもさることながら、今回の取り組みを通じて、地域とのつながりをいかに作ったかを評価のテーマにします。

プロジェクト名:

草津街あかり・華あかり・夢あかりプロジェクト

受入団体名: 草津市 商工観光労政課

募集人数

約20名

<受入団体からのメッセージ>

「草津街あかり・華あかり・夢あかり」(以下街あかり)は毎年11月の上旬に開催される、草津市を代表するイベントです。昨年は11月6日(金)、7日(土)の18時～21時に開催し、2日間で3万人の来場がありました。街あかりのコンセプトは「草津の魅力再発見」。普段は何げなく通り過ぎていた道をあかりで装飾し、楽しみながら街なかを散策し、普段の生活ではなかなか意識していなかった、気づかなかった地元のお店や、神社、お寺などの地元の魅力的な資源を市民の人に知ってもらうことが目的です。このイベントを舞台にみなさんには参加者が楽しめる催しの企画立案、準備、運営をしていただきます。何か決まったことをしなければならないということはありません。「イベントを楽しんでもらう」、そのことを目標にみなさんで知恵を出し合い、力を合わせて準備、運営をしていただきたいと思います。

<主な活動場所>

(最寄駅・バス停など: JR草津駅)

<日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール ()Facebook (○)LINE (○)電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

街あかりは実行委員会形式で、地域の住民が中心となって企画・運営を行っています。委員は地元企業の社長や町内会長などで構成されているため、どうしても高齢化してしまう傾向があります。また、毎年行われているイベントのため、マンネリ化している傾向もあります。そこで学生さん達の若い目線、街あかりに対して固定観念のない目線からも、イベントの企画・運営を行っていただきたいと思います。

<活動パターン>

- (○)毎週1日程度・定例
- ()月1～2回・不定期
- ()主に夏期休暇・集中
- ()その他

→具体的には…

行う内容によって活動頻度は異なります。夏以降は毎週末のように集まっていた年もありました。受講生の情熱にお任せします！

<活動のテーマと主な内容>

未来のためにまちづくりの手法を体験する

昨年の活動内容

クイズラリー

街あかりの恒例となっている人気イベントです、街なかの複数の箇所にクイズを設置し、回答者には学生手作りのキャンドルをプレゼントしました。学生には当日の運営、景品のキャンドル作り、クイズ設置個所の検討、設置場所の関係者との交渉、クイズラリーの台紙作成・印刷の発注などを行いました。

百灯繚乱

コップ型に成形した空き瓶に願い事やイラストを書いてもらい、広場に並べてろうそくを灯す、来場者参加型のイベントです。用意した空き瓶はすぐになくなってしまった人気のイベントでした。当日の運営、空き瓶の確保・加工、必要物品の用意などを行いました。

スカイランタン

テントの骨組みにランタンを吊るし、あかりのトンネルを制作する企画でした。ランタンの作成を行いました。諸事情により実施には至りませんでした。

その他

街あかり実行委員会へ出席してもらい、学生の行っている企画内容、進捗状況を説明してもらいました。また、地元町内会への企画説明、協力依頼などの渉外活動も行いました。



キャンドル制作中

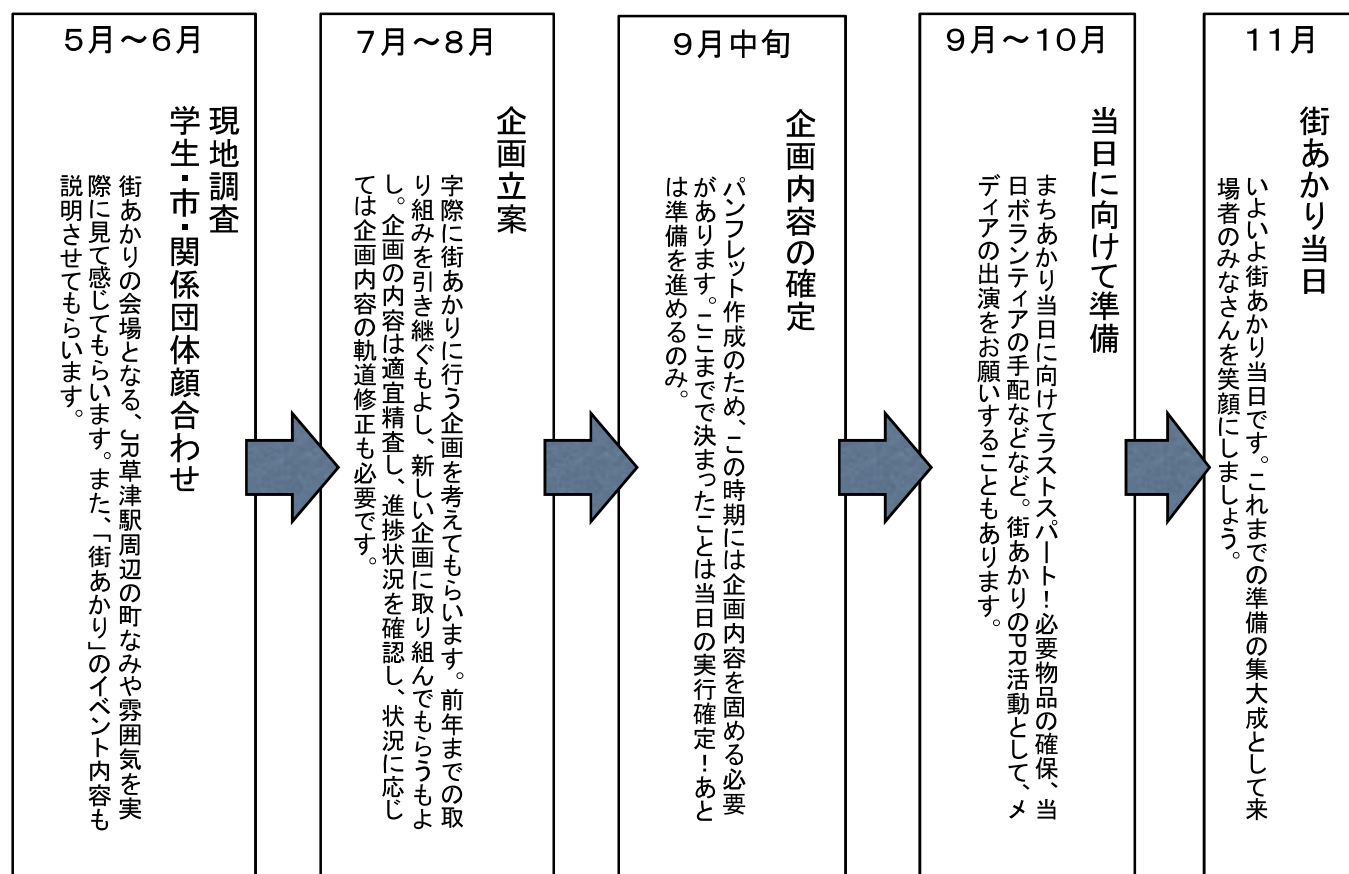


クイズラリーは大盛況

<期待できる学び>

「まちづくり」という言葉がありますが、住民がまちづくりに関わることはどういうことでしょうか？役所の審議会の委員になる、町内会の役員として活動する。色々な関わり方がありますが、街あかりのような人が楽しめる、喜んでもらえるイベントを行うことも立派な「まちづくり」です。このプロジェクトには「これをしなければならぬ」という決まったことはありません。街あかりというイベントを舞台に、みなさんがこれまで学んできたことをアウトプットし、来場者の楽しめるものを作り上げてもらいたいと思います。その過程として、企画の立案、計画の策定、関係者との調整などの手法を学んでもらいたいと思います。様々な年代や立場の人が関わるイベントですので、学生さんにとって良い経験になると思います。

<活動の流れ>



<受講生に求めること>

費用	活動場所までの交通費(主にJR草津駅や草津市役所周辺)
参加の姿勢	他の学業などによりスケジュールの確保が難しいことは理解しますが、授業である以上、積極的な参加を求めます。人間同士が直接顔を合わせ、話し合い、自らの手を動かすことを重視します。
終了後の評価	上記の姿勢をもとに、出席状況を考慮して判断します。

プロジェクト名:

「多文化共生」「国際理解」プロジェクト

受入団体名: 草津市国際交流協会

募集人数

5名

＜受入団体からのメッセージ＞

多文化共生社会実現のために様々な活動をしています。
若い学生さん達の新鮮な目線を、そして若い力を期待しています。
一緒に活動し、様々な外国の人達との交流の輪を広げませんか？
イベントの企画段階より参加して、イベントを盛上げてくれませんか？
期待して待っています。

＜主な活動場所＞

草津まちづくりセンター(最寄駅・バス停など:草津駅)

＜日常的なコミュニケーションの手段＞

(○)電子メール ()Facebook ()LINE ()電話

＜活動する現場で学生が求められる理由＞

イベント企画力
コミュニケーション能力
一緒に活動していくパワー

＜活動パターン＞

() 毎週1日程度・定例
(○) 月1～2回・不定期
() 主に夏期休暇・集中
() その他
→具体的には…

＜活動のテーマと主な内容＞

「世界と出会う交流広場」のイベント内容を企画・運営する

「世界と出会う交流広場」はNPO滋賀がいいもん市、RIFA(栗東国際協会)と共同開催で行う、多文化交流の楽しいイベントです。
昨年は草津市矢橋帰帆島のわんぱく広場で、各国多彩な料理出店、民族衣装ファッションショー、等のステージ公演、それにシャボン玉作り、大道芸などの催し物等の楽しいイベントを開催しました。今年度も引続いて共同開催で実施予定です。
毎年、パフォーマンス内容は事前の企画会議で決めていきます(4～5回開催)
企画会議より参加して、新しい目線での新鮮なパフォーマンスを提案ください。
企画内容が決定すれば、自分の担当パフォーマンスの準備を他のスタッフと協力してお願いします。
イベント当日の準備作業の後、皆と一緒にイベントを楽しんでください。
そして最後の片付けまでお願いします。

＜期待できる学び＞

企画会議での話し合いを通じてのコミュニケーション力のアップ
企画会議を通じての、イベント企画力の向上
地域でのイベント内容の実態の経験
異文化交流の実践の場

<活動の流れ>

日時	場所	活動内容
5月	未定	地域の清掃活動とBBQ大会
6月	草津市役所	世界と出会う交流広場・第1回企画会議(実行委員会兼務)
6月	草津エスクエア	交流広場で国際交流イベント(スタンプラリー)
7月2日	BKC	七夕まつり(BKCのTISAとの共催イベント)
8月6日, 7日	マキノ	国際交流キャンプ(滋賀大学CISとの共催)
8月	草津市役所	世界と出会う交流広場・第2回企画会議(実行委員会兼務)
9月	草津市役所	世界と出会う交流広場・第3回企画会議(実行委員会兼務)
10月	草津市役所	世界と出会う交流広場・第4回企画会議(実行委員会兼務)
11月13日	未定	世界と出会う交流広場
11月27日	未定(湖東?)	留学生と行くバスツアー

<受講生に求めること>

費用	イベント当日は昼食をはさむことが多いので昼食代は支給します。 それ以外の費用は交通費含めてご負担下さい。
参加の姿勢	周りのスタッフも学生さん達に期待しています、時間を守り・活発に発言し・積極的に活動して頂く事を期待します。
終了後の評価	次年度以降のこのような活動に役立てたいので、参加された事に対するレポートを共有させてください。

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

企画会議、イベント共に私達はボランティア活動での参加が基本です。
皆、仕事が終わった後の夜等に会合しますので、時間厳守と欠席の場合の事前連絡等の基本マナーを守って頂けるようにお願いします。
様々な年代の人達との交流が図れます・・・期待下さい